

鼓童



鼓童、浅草に行く

- トピックス 鼓童ワン・アース・ツアー2013～伝説
- トピックス アマテラス
- 研修生～6月のつぶやき
- アース・セレブレーション2013
特別フリンジ じゃんがら念仏踊(菅波青年会)
セミナー 宮本常一と鬼太鼓座の時代
- フリートーク 小見麻梨子

鼓童の浅草練り歩き。古きよき町並みに半纏姿がよく似合う。

(写真:岡本隆史)

「アマテラス」を観るか、それとも「佐渡特別公演」を観るか。両方でしょ!

鼓童通信

2013年5月～6月



五／二九 福岡・宗像市立日の里中学校での交流公演の様子。(写真：上田恵里花)

ONE EARTH TOUR ワン・アース・ツアー

五／二二 富山でのオフ

富山県でのオフの日。一時間程電車で揺られ、高岡市にある伏木港に行きました。伏木には古くから「帆柱起こし祝い唄」と呼ばれる民謡があり、これは研修生が伊藤多喜雄さんから教わり、鼓童で歌い継いでいる演目の一つ「帆柱起こし音頭」の元唄となっています。研修生の頃から行きたいと思っていただけに、伏木駅に降り立っただけで感無量でした。

町中には、その昔、廻船問屋だった屋敷などが残っていて、北前船の往来で栄えた面影が漂っていました。鼓童村のある小木も昔は北前船で栄えた港町だったので、もしかしたら佐渡と伏木で船が行き来していたかもしれません。鼓童と佐渡と伏木の不思議な共通点を発見し、ツアーで全国を旅する楽しさも見つけることができました。

六／六～九 東京・浅草公会堂

昨年の春から始まった「伝説」ツアーが、浅草で千秋楽を迎えました。浅草での公演は、約二〇年振りとのこと。また、今回の公演は地元浅草の方々の多大なご支援により実現しました。

一年間、同じメンバーで旅を続け、作り上げてきた「伝説」の舞台。言わなくても分かるお互いの呼吸、間、キメのフレーズ…。一緒にツアーを回っていたからこそ互いを信頼し全力で演奏できる舞台になりました。千秋楽の緞帳が降りた

時、メンバー全員に言い知れぬ思いがこみ上げて来たのは、言うまでもありません。(報告：花岡哲海)

SCHOOL TOUR 交流学校公演

五／三〇、三一 福岡・久留米市立合川小学校

低学年と高学年にわかれての二回公演。始まる前から「すごい楽しみ！」と声をかけてくれる元気いっぱいの子童たちを前に、メンバーも張り切った演奏。

女性三人による演目「明けの明星」では、「すごいねー」と身振り手振り真似をする女の子たち。熱い眼差しで舞台に入っていたり、雷のような太鼓の一下目でどよめきがおきたりと、演奏に対して真っ直ぐな反応をみせてくれました。

「子ども達が感動していました。木の命をいただいた、そこに皆さんが命を吹き込んで、それが子ども達の命につながっていく、それを感じる演奏でした。本当に有難うございました。」と涙ながらに話してくださった先生の言葉が嬉しく、心あたたまる瞬間でした。

六／七 新潟・柏崎市文化会館アルフォーレ大ホール(二回公演)

開演前から子ども達のワクワク感と熱気であふれる場内。今日は柏崎市内の全小学五年生と中学一年生、二回公演合わせると一六〇〇名近い生徒さんが劇場に集まりました。舞台は学校体育館での演奏とはまたひと味違って、音質のよい環

境に、照明も加わりグレードアップ。光に照らされ浮かび上がる太鼓打ちの姿に「わー…カッコいい!」「すごい」という反応や、毎度人気の「P.P.C.」では笑い転げる中学生も。一般の劇場公演とは違い演奏者の声や素顔がみえること、ワークショップを通して客席と一体になることに主催者様も喜んでくださいました。(報告：上田恵里花)

SOLO ACTIVITY ソロ・小編成活動

六／十二 新潟・佐渡市立金井小学校

統合して一年目になる新校舎での公演。子ども達の後ろから「下山囃子」で登場すると、小島千絵子の振るリボンに引き寄せられ、子ども達の目がくりくり動きます。近づくこと恥ずかしそうにはにかんだり。太鼓や笛の演奏、踊りに加え、山口幹文による楽器の説明、そして体験コーナーではリズムを覚えて叩いてもらい、校歌と合奏しました。覚えてにも関わらず、全校児童が歌う校歌に太鼓のリズムがぴったり合っていたのには驚きました。子どもに細かい説明はいらないのですね。体育館がひとつになりました。佐渡の方々に、また、親子で、鼓童の公演を見ていただき、楽しい時間を共有できたことがとても嬉しいです。(報告：宮崎正美)

山口幹文 一管風月

六／二一 群馬・でくの房

実に二一年ぶりとなる前橋市での一管

サコちゃん 疲れ知らずの
正文 vol.104



作：宮崎正美

風月でした。会場となった「くの房」は、版画家で絵本作家の野村たかあきさんの工房。三〇席ほどの小さなスペースでしたが、地元をはじめ、遠方からのお客様や二二年ぶりの方々に満席となりました。曲の合間にお客様から質問が出たり、公演後に中学生の男の子がお手製の笛を見せてくれたりと、この会場ならではの雰囲気がとても暖かく印象的でした。雨の中をご来場くださったお客様と、ご主催してくださった野村さんに、心より御礼申し上げます。(報告：山口幹文)

藤本吉利・容子出演
六／二三 広島・はつかいち文化ホール「さくらびあ」大ホール

阿厳太鼓結成三三周年記念の催しで、私と容子の二人で出演させていただきました。阿厳太鼓は「世界文化遺産・厳島神社」の対岸にある高台、阿品台で結成され、この地に伝わる芸能を太鼓の旋律で表現しようと取り組んでいらつしやいます。「平清盛の如く夢を創り伝承する族たち」と題された一部の舞台は、笙

の武由美子さんが加わられた演目もあり、とても印象的でした。二部は私と容子で「寿ぎの海山」と題し八演目を演奏させていただきました。そして、フィナーレは全員で二曲。みんながひとつになれたことを感じられる嬉しい瞬間でした。(報告：藤本吉利)

SADO ISHII TAIKO CENTRE
佐渡太鼓体験交流館

六／八、九「丸の内朝大学」フィールドワーク

昨年に引き続き、齊藤栄一が講師を務める丸の内朝大学和太鼓クラス。全八回の講座のうち、最後の講座で佐渡合宿を行いました。初日はたたこ館で丸々二時間、太鼓を打ち続けました。東京でたたく太鼓と、自然いっぽいの佐渡でたたく太鼓はやっぱり違うとのこと。それを聞くと、自然の力はすごいな、やっぱり佐渡はいいな...と、なぜか自分のことのように嬉しく感じました。ひとつひとつの音が弾んでいて、聞いていて本当に気持ちの良い音でした。

二日目は午前中に三時間、夏のECFリンジ出演に向けて、自分たちの曲の稽古を行いました。曲の流れも形にでき、あとはECまで自主稽古です。どのような演奏になるのか、今から楽しみです。皆さんには山菜料理と手打ち蕎麦で佐渡合宿を打ち上げいただきました。

(報告：真崎混大)

稽古場ルポルタージュ

稽古場で目撃した様々な出来事を、松田菜瑠美が写真とともにレポートします。

〜夜稽古〜

時刻は二二時四五分。辺りは真つ暗な夜に、三宅太鼓の音が響いています。若手男性が交代しながら打ち続けていました。夜は個人稽古の時間、稽古場の音出しは二二時までの決まり。残り僅かな時間を惜しむように太鼓の音も熱を増していきます。佐渡の中で間違はなくここが一番賑やかだと言いつける、会話もできない空間となっていました。地打ちの平胴太鼓がより爆音効果を上げています。他の楽器の稽古をしていた人も集まって来ました。この制限時間ギリギリ感がなんだか楽しそうです。残り数分！頑張ってください！



トピックス 鼓童ワン・アース・ツアー2013～伝説



一年間のツアーを経て 浅草公会堂で国内公演ファイナル

構成●後藤美奈子 写真●岡本隆史(P.5)、西田太郎(P.4)

鼓童にとって、一年以上同じプログラム、ほぼ固定されたメンバーで公演ツアーを行うことは、ここ近年にはなかったことでした。芸術監督を迎えること、舞台は勿論、求められる舞台以外の演奏者の在り方。この「伝説」のプログラムは、たくさんの初めてを背負って始まりました。

皆にとつて前を向いて走り続けた年。四人の新人たちにも後輩が入って来て、先輩になりました。匂い立つような初々しさから逞しさへ。鼓童という連綿と続く営みは、常に動き続けている生き物でもあることを実感させられます。

今回、全公演に参加した、太鼓芸能集団「鼓童」の執行役員でもある辻勝。代表の見留知弘と共に、ツアーの重責をになつてきました。毎回の舞台を経て、彼らを感じ、身につけてきたたたくさんのこと。ツアーを終えたのコメントからは「伝説」というプログラムがひとつの伝説になる瞬間を感じます。

辻勝

伝説とは、それを成し得るものが、本当の意味で自身が真の姿となり、動き出すこと。その姿が少しでも見えた時、はじめて人々はそれに目を向け、惹きつけられ、そして語り継いでいくものだと思っています。

僕が考える真の姿とは、硬い石のように動かないものではなく柔らかく、流動的で、常

に変化しているもの。

時の流れと共に景色や物の状態が常に変化している中で、勿論人間も常に変化を重ねています。変化に従い、その時の何かが常に生まれ続けている。それとまぎれ合うことが第一で、それを理解する、しないではなく、正確に感じる事が大事だと思っています。そして自身の感覚で、それを行動、表現という段階へもつていく。

タンクトップ、黒のパンツ、スニーカー、アクセサリー、さらさらの衣装、新人の大量抜擢…。鼓童の中には、どう捉え、扱ってよいのかメソッドがなかったこれらのアイテム。

芸術監督が意図的な変化をもたらし、それによつて起こるいろいろなことにメンバー一人一人が自分で考え、表現を実行していきました。その力こそ人の真の力であり、姿であり、そしてその方向性が揃っていたことが鼓童の真の力ではないかと、このツアーを通して強く感じました。

硬い石は砕かれると、バラバラになつてしまふ。柔らかく流動的なものは、あらゆる形に適応しながら時を超えて行きます。

歩いてきた足跡がバラバラでも、現時点に鼓童が存在すれば、それらの足跡全てが伝説として語り継がれるのだと思えます。



4



1

浅草散策



2



5

1と3 浅草滞在期間中に、浅草寺にお参りをしてきました。
 2 公会堂前にある「スターの広場」で、住吉佑太が手をあてているのは芸術監督の坂東玉三郎さんの手形。
 4 浅草公会堂前で記念撮影。
 5 「浅草へ行こう」シリーズでもご紹介したハンタバス。公演の告知をしながら走ってくれていました。



3

浅草公演期間中に

連続公演でしかできないことを、浅草公会堂始め、地元の皆さんと試みました。公会堂一階の展示ホールに「鼓童の紹介」パネルを設置、鼓童の歴史や歴代の公演チラシなどを展示。鼓童文化財団研修所の様子も写真で紹介するコーナーも設けました。

また、地元商店街から五店、会場内で商品販売を行なって頂きました。ロビーの一角に仲見世が越してきたような賑やかさでした。

そして、インターネットを通じて公演本番を生中継。音も映像も鼓童の舞台をよくご存知のスタッフによって、記念すべき千種楽を国内はもとより世界中の皆様にご利用タイムでお届けし、国内外でのべ七千人以上の方々にご覧いただきました。

DATA

鼓童ワン・アース・ツアー～伝説

公演期間：2012年5月12日（土）～2013年6月9日（日）

国内公演 2012年 春 18回、秋 20回、12月 10回
 2013年 春 17回

北米公演 28回 全93回公演

プログラム：【1部】カデン、モノクローム、いぶき

【2部】鬼太鼓、月待ち、大太鼓、屋台囃子

アンコール 結

演出構成：坂東玉三郎 照明デザイン：熊田勝博（S.L.S）

トピックス

日本ロレックス presents アマテラス

7月から始まる「アマテラス」。東京公演を目前に控えた6月下旬、熱気溢れる稽古場からの報告です。

報告●洲崎純子、写真●西田太郎



初演から七年。出演者の三分の二近くが新たな顔ぶれとなりました。初演当時は研修生だった者、「アマテラス」を観て舞台を志した者、まだ中学生だった者。様々な七年を経てきた新たなキャストが放つエネルギーが稽古場を満たしています。

数日間のパート稽古が終わり、初めての通し稽古が行われました。今日は研修生達も見稽古です。稽古場の一隅から、食い入る様に見つめます。

一幕。初演とは趣を変えた冒頭場面。続いて篠笛と箏、唄を中心とした繊細な旋律で奏でるアマテラス登場の場面。昨年十一月に行われた金丸座

「坂東玉三郎特別公演」での舞踊を支える音楽という難しい経験を経て、この場面に臨みます。

そして、スサノオ登場。「自分を空っぽの器にしてスサノオを入れる」そう話していた小田洋介。舞台上を静かに歩み出る動作だけで、玉のような汗が吹き出しています。一步一步、間合いを確かめるような静かな動き。しかし、太鼓を連打して暴れ回る場面では、さすがに本領発揮です。荒れ狂う天空と青海原のごときアマテラスとスサノオの心模様を表す場面はさらに進化し、激しさを増しています。

この場面を数日間考え続けたという玉三郎さん。パート稽古では細かく動きを確認し、最後にひとつの流れが見えた時、「できましたね!」と、皆にホッとさせた笑顔を向けられていました。

一方、二幕で登場する八百万の神々。コミカルな場面も新たなキャストで新鮮なイメージです。新曲も交え鼓童のお馴染みの演目を次々に変化させ、天の岩屋戸に向かって渾身の力で叩き続けます。

そこに、さらに新風を吹き込むのが、愛音羽麗さんのアミノウズメです。すらりとした姿や宝塚でのキャリアから西洋的な印象ながら、すでにジャンルを越えて太鼓の環の中心で日本最古の踊り手となつてもう一つの光を放っています。

愛音さんの振付は、宝塚歌劇団でも振付をされているKAZUMI BOYさん。

今回は、愛音さんだけでなく玉三郎さんの演出を全編にわたって支えています。

「鼓童の皆さんの中で踊った感覚は、これまで宝塚でも経験したことのないような初めてのものでした」と愛音さん。表情も身のこなしも、これまですべて「男役」という制約の中で踊ってこられた愛音さんにとつて、このアミノウズメは、役ではなく、自分のすべてをさらけ出すような、本当の自分の姿を見つけるような感覚だったといえます。それは太鼓のなせる技かもしれません。

新キャストで新たな命が吹き込まれた神話の世界が始まっています。

※このたび、音楽監督が吉井盛悟より石塚充に変更になりました。



高千穂・天岩戸神社参拝

(写真・柴田繁一)

六月五日、坂東玉三郎さん、愛音羽麗さん、見留知弘が宮崎県高千穂町の天岩戸神社に参拝し、「アマテラス」の成功を祈願しました。また八百万の神々が集まったという天安河原(右写真)を訪ねました。

「『アマテラス』縁の地である天岩戸神社に赴き、とても身が引き締まる思いがしました。天安河原には、数万の石積みが八百万の神様をお願いする願掛けとしてありました。私達は舞台で八百万の神々として天鈿女命と共に、天照大神様に天の岩屋戸から出てもらうために一生懸命に演舞することが、石積みの願いと通じると感じました。」

(見留知弘談)

田んぼの草取り／日頃はひたすら忍耐の作業も、内野中学校の生徒さんに手伝ってもらったこの日は楽しい作業。



日誌に見る 鼓童文化財団研修生～6月のつづやき

研修生の日誌より 6/1 (土) 2年:男性

今日からもう6月。本当にあっという間だ。相川京町の相川音頭流し『宵乃舞』を観に行った。去年はよく分からなかったが、一年間佐渡に住んでみて見方が変わったのが、今年はとても面白かった。去年はすべての行事をなあなあに見て過ごしていた自分がいて、二年目があったから感じられたことだ。提灯の灯りや、笠に顔を隠した踊り子の手のしなやかさ、ちょっとした事に心惹かれた。夜の雰囲気が何とも言えなくて最高に良かったです。少しは感性変わったのかな？

稽古・行事

- ・宵乃舞、薪能、羽茂まつり見学
- ・岡田京子先生 歌の稽古
- ・金城光枝先生 琉球舞踊集中稽古
- ・松永政雄先生 能の稽古
- ・狩野泰一先生 笛の稽古
- ・岩崎ちひろさん 魚の捌き方講座
- ・メンバーに向けての発表会
- ・松ヶ崎中学校、内野中学校との交流会
- ・農作業／田んぼ、柿畑、畑
- ・機関誌発送作業
- ・それらを縫って組み込まれる鼓童内メンバーによる稽古



6/5 (水) 1年:女性

今日は、岡田京子先生の3日目の歌の稽古。民謡音階を使って自分で作曲をしました。初めは作れるかとても不安でしたが、家族のことを思っとうにか仕上がりました。みんなの前で歌うのは緊張して間違えてしまいましたが、岡田先生の、その人の感情を引き出すシンプルな作曲法で、もっとも自分のことを知れるようになりたいと思います。曲を作りながら家族のことを思い、涙が出てしまいました。東京に帰ったら父と母に歌ってあげたいです。(写真上)



羽茂まつりの薪能の前に謡を発表する2年生。

6/10 (月) 2年:男性

音が出ない… 太鼓の音が出ない… どうしたら良い音が出るんだろう？ ゆるみ？ 真ん中？ 絶対的なパワー？ わからない。最近ほんとにメンタル弱いなあ… 自分では必死でやってるのに全然できない、心が折れそう。

誰にも負けないパワーが欲しい。誰にも負けない体力が欲しい。誰にも負けない気力が欲しい。誰にも負けないデカい音が欲しい。何をしたらいい？ そんなの分からない。だったら打つのみだ！ もう考えても分からないからただひたすら打とう。
「ふきとべ両腕。打つべし打つべし!!」

6/15 (土) 1年:男性

正座は嫌いです。日本の芸能を学ぶ者として、正座は絶対に必要です。が、もし願いが叶うなら正座を無くして欲しい。それくらい今日の、二年生の琉球舞踊の見稽古はしんどかったです。でも… やらねばならない。理屈とか現代の常識が通じないのが伝統芸能。人が代々守り継いできたものに、僕らは土足で踏み込んでいる訳だ。それくらいのことしているのだから、正座くらいちゃんとやれ、と思う。けれど、身体はうまくそれを理解していない。足首や膝が悲鳴を上げ、もう無理だ、と息が上がる。でも姿勢を崩さない。その先に何かあるから。そこまで行きつきたい…。

夜は薪能の見学。草刈神社の茅葺きの能舞台のすぐ前の木に蟻がいっぱいいた。人が作り上げたもののすぐ横で、関係ないかのように自然が流れていた。月夜の下で舞う人。それを見る人。その横に在る自然。照らす星たちと月。それを見て何か掴めそうな気がした。佐渡にいる事をちゃんと理解できた気がした。



元・鼓童メンバーの狩野泰一さんによる笛の稽古。

いわき市指定無形民俗文化財 じゃんがら念仏踊

いわき市平 菅波青年会
構成●後藤美奈子



演奏風景：揃いの浴衣に、白褌、手甲、白足袋、鉢巻。太鼓は腰からさげるとして身体の前側につけます。太鼓の周りは鉦兼手踊りのメンバー。写真は手踊りをしているところ。



満を持して！福島県いわき市の菅波青年会による「じゃんがら念仏踊」をアース・セレブレーションのフリンジで紹介することができるになりました。

鼓童では、一九九六年に「じゃんがら念仏踊」を元に、「八重の浮立」という演目を舞台でも演奏してきました。

ご存知のように、福島県の浜通り地区といわれる太平洋岸一帯は二〇一一年三月の東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故に遭いました。震災以降にあらめて見直される地元のアイデンティティと共に「じゃんがら念仏踊」がもつ本来の「慰霊・鎮魂」の精神も、今年の佐渡で感じていただければと思います。

ECで地元の芸能を紹介できることはこの上ない喜びです。福島県いわき市出身、スタッフの後藤が紹介させていただきました。

「じゃんがら念仏踊」を地元では「じゃんがら」といいます。いわきの人にとって「じゃんがら」は好き嫌いを通り越して生活の中にあるものといつても過言ではありません。この太鼓と鉦の音は故郷の夏の風物詩で、お盆になれば近所の新盆の家に「じゃんがら」がまわってきます。道案内をするような鉦の音を頼りにたどりついた家の庭先には、盆提灯と祭壇。皆に見守られながら、賑やかに故人を偲ぶ。いわきのお盆は、あの世とこの世を「じゃんがら」が繋いでいます。

「じゃんがら念仏踊とは」

福島県いわき市を中心に行なわれている郷土芸能。太鼓、鉦を打ち鳴らしながら新盆を迎えた家などを供養してまわる踊念仏の一種。主に毎年八月十三日から十五日までの三日間行われ、いわき市の無形民俗文化財に指定されています。

「歴史」

諸説ありますが、近年では、江戸時代（二六五六年・明暦二年）、村人たちが沢村勘兵衛という用水路工事を指揮した武士の霊を慰めるために、当時江戸で流行していた泡齋念仏を踊ったのが始まりと言われます。風紀上の問題などから何度かの「禁止令」が出されながら、時代にあわせて今に伝わっています。

「行われている地域」

福島県いわき市を中心に、北は双葉郡大熊町・富岡町、南は茨城県北茨城市まで分布しており、各集落の青年会を中心に継承団体があります。地域や団体によって踊りやテンポ、音楽が違ったり、笛が入るものなど様々です。

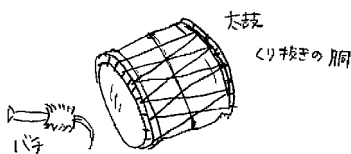
「構成」

青年会保存会等のメンバーを中心に十人（十五人程で構成されます。その内一人は提灯持ち、太鼓が三人、鉦が七人〜十人で行われます。

曲は「道中太鼓」「ぶつけ」「唄（手踊り）」という構成からなります。「曲を」がらと呼び、正式な演奏はがら約二〇分程です。

太鼓が様々な振り付けを交えながらフワフワとした白い兔の毛で覆われたバチを回して叩かれる様は力強く華やか。

また、太鼓にあわせて歌われる「ナアハアハア」、モオホホホイ…の部分には念仏に節を付けて崩したといわれています。手踊りの中には両手を合わせて祈りを捧げる振りもあり、故人の霊を慰める念仏踊の姿が感じられます。また歌詞は「磐城平で見せたいものは、桜つじにじゃんがら踊り」「盆でば米の飯おつけば茄子汁、十六ささげのよこしはどうだ」など訪ねる地域によって違う歌詞を歌っています。



EC 特別フリンジ
 ハーパーマーケット内特設ステージ
 8/24 (土) 21:15 ~ 21:45
 8/25 (日) 12:00 ~ 12:30 (予定)



新盆のお宅の庭先で。(写真：菅波青年会提供)



四ノ十四 菅波での稽古にて。前列中央にいらっしゃるのが山名隆史さん

今回、フリンジに出演いただく、菅波青年会のじゃんがらは、市内でも「昔の形を良く残している上品なじゃんがら」と言われています。菅波地区は、いわき駅から車で十分程の集落。市街化調整区域の為に、宅地化されず、じゃんがら念仏踊り以外にも、獅子舞、神楽、御神輿など古くからの習俗やしきたりを残す貴重な地区でもあります。

菅波青年会OBで、鼓童が「じゃんがら念仏踊」を習い始めた当時からお世話になっている、大國魂神社の祇宜でもある山名隆史さんに、コメントをいただきました。

青年会とじゃんがら

いわきには「じゃんがら」を継承している団体は百十を数えると言われています。その中心が青年会なのですが、残念ながらその青年会の多くが「じゃんがら」だけ活動している状況です。ましてや保存会組織になると「層」という性格が強くなっております。

菅波青年会はほぼ一年を通じて活動しており、「じゃんがら」はそのほんの一部といってもよいでしょう。ですので、菅波青年会は会長のひとりで集合することが可能なわけであり、様々なイベント等における「じゃんがら」の依頼も集中してしまっている状態です。

また、先輩から継承した「技術と精神」が確実にそのままた後に引き継がれており、離れた世代間でも共通の「じゃんがら」を演舞することが出来ます。だからこそ地域のなくなられた方に対する気持ちも揺らぐことなく、安定した「慰霊・鎮魂」ができるのだと思います。

鼓童とのおつきあい

そのような、時代じみた青年会にとって鼓童さんとおつきあいは大きな刺激でした。プロフェッショナルの方々に対して、たいへん失礼とは思いますが、まるで「自分たちの分身」を見ていく気分になります。単に「技術の伝習」だけではなく、青年会の活動をそのまま受容していただいている、というのが率直な思いです。

一番最初にいらつしたメンバーも新しく参加したメンバーも変わることのない、その姿勢は、私たち青年会も鑑としなければなりません。鼓童さんは青年会の分身であるという気持ちはずっと変わりません。

東日本大震災を経て

青年会には「慰霊・鎮魂」、そして今を生きる方々の魂を奮い起こすことができる「すべ」を持つているという強い自覚が生まれました。御神輿をかつぐこと、じゃんがらを踊ること、獅子舞を舞うこと、注連縄をつくること、ソフトボールをすること、おなががはち切れるぐらい大食いすること、わいわいダラダラとお酒を酌み交わすこと。そういった太くて強いかわりを青年会活動で実感するよさごび。近隣の地区では地震や大津波により、大切な生命と財産を失い、また傷つきました。当地区もまた、少なくない被害を蒙りました。さらには原発事故により大小さまざまな犠牲が生じました。そのような中で「じゃんがら」や「青年会」を通じて、先輩から引き継いだものを後代に託すという覚悟が大きくなったことが発見のひとつ。さらには、衣裳や道具類を大切にたいせつに使い「技術と精神」を残してくれた先輩方の労苦を改めて感じています。

地元から学ぶ

四月十三、十四日
 いわきでの稽古

三人の太鼓衆を大勢の鉦切りがぐるりと囲み、じゃんじゃじゃんじゃと鳴らし続ける。それぞれを自然と意識し合い、鉦の音に身を委ねた太鼓衆三人の息の合った音と、互いに吸い付き合って響き渡る中魂のようなふわりとしたバチが舞う。振りを含ませ、音を含ませ、気持ちを含ませる。それは先祖代々の土地で協力し合って暮らしてきた人たちの互いに対する気遣いや思いやりであり、手段の一つで、生活に根付いた芸能の姿でした。自分にとっては二度目となる菅波での稽古。見た目も構成もすっかりアレンジしてしまふ自分たちが、地元から何を学ぶべきなのか。それは音の中にすべてあったことを実感できたことが最大の収穫でした。

(内田 依利)

念仏を唱える様に、供養の気持ちでぶっつける。ねばつく、たつぷりと…。最初から最後まで口と身体でしか伝わらない、芸能を学ぶにあたって一番難しく、一番大切な部分を二日間という短い時間の中ではありましたが、菅波の皆さんが少しでも多く私達に伝えようとして下さったことがとても嬉しかったです。稽古をつけて頂いている中で、「なんか分からないけど、何か違うんだよね」と何度も指摘されます。現地ですべて頂く稽古は「何かが違う」の「何か」に少しでも近づくものなのだと、強く感じました。その「何か」をこれから先、どう持ち帰り、どう表現していくかということも、現地で学ばせて頂いたひとりと責任を持って考えていきたいと思いました。

(小松崎 正吾)

宮本常一と鬼太鼓座の時代

昨年のECにおいて宿根木・小木民俗博物館で開催したセミナー「宿根木と宮本常一」。今回は「宮本常一と鬼太鼓座の時代」と題して、鼓童の前身「佐渡の國鬼太鼓座」誕生の背景にある1950~70年代の様々な思想、時代状況、そして佐渡の風土を読み解き、鼓童に流れる精神的なルーツを探っていきます。



写真：宮川舞子

●セミナー開催に寄せて

一九八二年、鼓童村構想という夢に魅せられて、創設間もない鼓童に入った私は、当時の拠点であった旧大小小学校の本棚に並ぶ「宮本常一全集」に出会い、私たちの活動の原点に、宮本常一という民俗学者の存在があることを知りました。「佐渡の國鬼太鼓座」の創設者である田耕氏が佐渡を訪ねたきっかけは宮本先生の勧めであり、鬼太鼓座誕生に繋がる「おんどこ座夏期学校」（一九七〇年）の校長も務められました。

一九八八年に逝去されたご本人に、私は残念ながらお会いしていません。しかしながら、「地域のエネルギーが国を生き生きとさせる」「文化的な組織をつくる」「国際性を持つ」というような、当時の鬼太鼓座メンバーに託された言葉は、自分への言葉として今でも大切にしています。

このセミナーは、私にとっても、鼓童と自分の原点を遡る時間として、楽しみにしています。皆様のご参加をお待ちしております。

鼓童文化財団専務理事 菅野敦司



1970年「おんどこ座夏期学校」。宿根木の称光寺で念仏を聞きながら昼寝をするのがプログラムのひとつだった。

●講師のご紹介

小西 公大（東京外国語大学特定研究員）
 杉本 浄（東海大学文学部専任講師）
 門田 岳久（立教大学観光学部助教）

小西公大さんは東京外国語大学現代インフォ研究センター特定研究員で、専門は社会人類学。杉本浄さんは佐渡出身、東海大学文学部アジア文明科学専任講師で専門は歴史学。おふたりともにインドをフィールドに長年研究に従事されてきました。門田岳久さんは佐渡で十年余りフィールドワークを続けてこられました。

三名の講師の皆さんは、それぞれ異なる研究テーマ・フィールドを持ちつつも、佐渡というフィールドで繋がりを得られました。二〇〇九年より南佐渡における廃校舎の再利用と地域活性化を共通のテーマに、「廃校プロジェクト」という研究プロジェクトを進めていこうとしています。とりわけ旧宿根木小学校を再利用した小木民俗博物館に注目され、昨年のECで開催した「宿根木と宮本常一」でも講師を務められました。

「宮本常一と鬼太鼓座の時代」

日時:8月25日(日) 9:30~12:30
 会場:小木民俗博物館
 料金:3,000円(中学生以上)
 対象:中学生以上
 定員:20名
 ※9:30EC案内所前で集合・受付、会場まで送迎バスがあります。
 ※お申込方法等はp.12をご覧ください。

鼓童三〇周年誌「いのちもやして、たたけよ」より
一 発端 「始まり」につながる七日間

一九七〇年八月三日。佐渡島の両津港に、三〇人余りの若者が降り立った。「佐渡島の民俗芸能を見て回り、歴史、文化を学びながら、地方文化の良さを見直してみよう」という企画に参加する若者達だ。

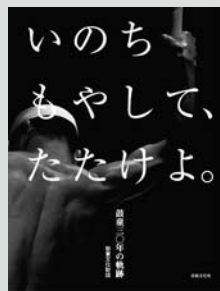
二九日まで、民宿に泊まりながら鬼太鼓や佐渡おけさなどの佐渡の芸能を見学し、相川の金山巡りや小木のたらい舟に乗って、佐渡の土地柄に触れた。初対面だった若者達は同年代の気安さで、次第に打ち解け、まるで修学旅行のように賑やかに過ごした。

最終日、それまで案内役のように振る舞っていた田耕(でんた)がやす 三八歳が参加者の前に立った。

「佐渡に日本の民俗芸能や工芸を学ぶ職人村と、日本海からの視点を見直す日本海大学を作る。その実現のために太鼓を持って世界を回り、思いを訴えつつ資金作りをする『おんどこ座』を作る。ぜひ参加してほしい！」

高度経済成長期の大量生産・大量消費が定着しつつあった時代。大学紛争の嵐は峠を越えたものの、まだくすぶっていた。自分たちの大学を自分たちの手で作る夢に賭けてみないかという田の熱い口ぶりは、若者達に魅力的に響いた。

そしてこの七日間が、若者達の人生を大きく変えた。



鼓童文化財団・著
 『いのちもやして、たたけよ。』
 一鼓童三〇年の軌跡―
 2,100円(問: 鼓童文化財団)

おみ・まり

小見麻梨子



鼓童に入って早5年。
これまでたくさんの叱咤激励を受けました。
出会って、心においている言葉をいくつかご紹介。

「毎日、崖っぷちよ。」



これは鼓童の大先輩が話していた言葉。
毎日、舞台に立つ時は自分の出来るすれすれの事に
挑戦している気持ち。
失敗を恐れて安全地帯にいたがる私に突き刺さりました。

「打って、はねて
その光が一瞬でも周りを照らせるならば。」

忘れていましたが、最近発見した私自身が研修生の時に
機関誌に書いた言葉。
自分は小さい、一瞬かもしれないけど、かまじやりに頑張れば
舞台に立って光を放てるかもしれない。
そんな可能性を信じ、取り組んでいた研修生活を思い出します。



「真実とはそれだけで美しい。」



美しいってなんなのか、と考えていた時に見つけた言葉。
稽古とは、演奏している音を、姿を自分にとっての「真実」に置きかえる為のもの。
その「真実」を、人は美しさと感じるのかも、思ったりしました。

只今、「アマテラス」の稽古の真の最中。

毎日めまぐるしく変化・進化していく舞台稽古では、

要所要所で、実力、技術、心の強さを試されます。

皆様の前で大きな光になれるよう がんばります！



小見 麻梨子(おみ・まりこ) 1984年11月4日生まれ 新潟県新潟市出身

2007年鼓童文化財団研修所入所、準メンバーを経て、2010年よりメンバー。舞台では主に太鼓、踊りを担当。「アマテラス」公演では箏にも取り組んでいる。

京都の大学で歴史を学んでいた学生時代(社会科の教員免許ももっています!)に和太鼓に出会う。研修所から同期の草洋介とは同じ大学の同じ和太鼓サークルの出身。男性に負けない腕力と体力は中学時代にバトミントン部で培われたもの。

アヒルのようなキュートな口と、細い身体で男性に負けないほどよく食べ、よく走り、よく笑う。研修所時代から欲しいままにしている「揚げ物女王」の名称も未だに健在で、食べるだけでなく、食事当番で揚げ物を作っても随一。絵や文字も、苦もなくさらさら描ける貴重な舞台メンバー。もうひとまわりふたまわり、期待の新潟娘はまだまだ大きくなりそうです。

KODŌ 公演情報

託…託児あり 先…鼓童の会会員先行予約あり 指…全席指定 自…全席自由

(6月28日現在)

鼓童 佐渡特別公演2013 — 夏 —

出演:藤本吉利、小島千絵子、山口幹文、宮崎正美、立石雷 ほか

7/13(土)-21(日)

7/17(水)休演 全8回公演
新潟県佐渡市 宿根木公会堂
14:30開場 15:00開演 16:00頃終演
詳細は16ページをご覧ください。
問) 鼓童文化財団 Tel. 0259-81-4100
(月~金 9:30~17:00)
佐渡太鼓体験交流館(たたこう館)
Tel. 0259-86-2320 (9:00~17:00月休)

千絵子流女打ち講座 ~夏~

8/11(日) 東京都目黒区

太鼓の里 響和館 (目黒区五本木2丁目15-9 秀永ビル B1)
①基礎・入門編
②基礎・ステップアップ編

どちらも定員に達しました。キャンセル待ちのみ受付中です。
問) 響和館 Tel. 03-3714-2774

梵天&鼓童 小島千絵子の世界 舞舞台「道成寺」

8/20(火),21(水)

神奈川県川崎市
川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
小田急線「新百合ヶ丘」駅北口より徒歩3分
18:30開場 19:00開演
4,000円(税込) 指
問) みらいスタジオ Tel. 044-328-9908
(月~金 11:00~18:00)

EC プレイイベント たたこう館体験ウィーク しんちゃん先生と太鼓体験

8/13(火)-22(木)

たたこう館太鼓体験ウィーク
「しんちゃんせんせいと太鼓体験」

佐渡太鼓体験交流館(たたこう館)
1日3回開催 10:00/13:30/15:00
19日(月)は休館、22日(木)は10:00のみ
1,500円 小学生 800円
定員各回 25名
問) 佐渡太鼓体験交流館(たたこう館)
Tel. 0259-86-2320
Email: info@sadotaiken.jp

EC プレイイベント 佐渡新能公演

8/21(水) 佐渡市原黒

第一夜 椎崎・諏訪神社能舞台公演
椎崎諏訪神社能舞台(両津地区)
演目: 狂言「魚説法(うおせっぽう)」
/能「殺生石(せっしょうせき)」
/創作ダンス「HAGOROMO」

8/22(木) 佐渡市相川下戸村

第二夜 春日神社能舞台公演
春日神社能舞台
演目: 狂言「舟ふな(ふねふな)」

日本ロレックス presents 「アマテラス」

7/4(木)-28(日) 東京都港区

赤坂 ACTシアター
東京メトロ千代田線「赤坂」駅徒歩1分
当日券: 各日程とも若干数あり。開場1時間前より販売、先着順。
S席 13,000円 A席 9,000円
B席 6,000円 指
未就学児の入場は不可
問) チケットスペース Tel. 03-3234-9999

9/5(木)-29(日) 福岡市

博多座
地下鉄「中洲川端」駅7番出口直結
開演時間は下のカレンダーをご覧ください
A席 15,000円 特B席 11,000円
B席 8,000円 C席 5,000円 指
未就学児の入場は不可
7/20(土) チケット発売
(7/20は電話予約・インターネット発売のみ、7/21より窓口販売)
問) 博多座電話予約センター
Tel. 092-263-5555
(10:00~18:00 / 日・祝日も受付)

10/5(土)-27(日) 京都府

京都四條 南座
阪急電鉄「河原町」駅(1番出口)より徒歩3分、京阪電鉄 祇園四条駅(6番出口)よりすぐ
開演時間は下のカレンダーをご覧ください
特等席 15,000円(1階両側敷、2階1列目)、一等席 14,000円(特等席を除く1、2階)、二等席 A 9,000円、二等席 B 7,000円、三等席 5,000円(二等席以下は全て3階) 指
未就学児の入場は不可
7/15(月・祝) チケット発売
問) 南座 Tel. 075-561-1155

2013年7月 東京公演 開演時間

日	月	火	水	木	金	土
				4	5	6
				18:30	14:00	14:00
7	8	9	10	11	12	13
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	休演	16:00
14	15	16	17	18	19	20
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	休演	16:00
21	22	23	24	25	26	27
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	18:30	14:00
28						
14:00						

2013年9月 福岡公演 開演時間

日	月	火	水	木	金	土	
					5	6	7
					14:00	18:00	14:00
8	9	10	11	12	13	14	
14:00	14:00	14:00	14:00	休演	18:00	14:00	
15	16	17	18	19	20	21	
14:00	14:00	14:00	14:00	休演	18:00	14:00	
22	23	24	25	26	27	28	
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	18:00	14:00	
29							
14:00							

2013年10月 京都公演 開演時間

日	月	火	水	木	金	土
						5
						14:30
6	7	8	9	10	11	12
14:30	14:30	14:30	14:30	休演	18:00	14:30
13	14	15	16	17	18	19
14:30	14:30	14:30	14:30	休演	18:00	14:30
20	21	22	23	24	25	26
14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	18:00	14:30
27						
14:30						

(6月28日現在)

能「羽衣(はごろも)」／創作ダンス「HAGOROMO」
両日共 18:30 開場 19:00 開演
20:30 終演予定
前 大人 3,000 円 小中高生 1,500 円
当 大人 3,300 円 小中高生 1,700 円^自
2会場通し券(前売のみ)大人 5,000 円、
小中高生 2,500 円
問) 佐渡観光協会 Tel. 0259-27-5000
Email: info@visitsado.com

アース・セレブレーション
2013

8/23(金)-25(日) 佐渡市

城山コンサート 会場: 城山公園

8/23 17:15 開場 18:30 開演

『打男 DADAN』

〈映像〉付き特別版

演出: 坂東玉三郎 出演: 鼓童
1日券 前 4,700 円 当 5,000 円

8/24 17:15 開場 18:30 開演

『創世』鼓童+上妻 プロジェクト

演出: 坂東玉三郎

出演: 鼓童、上妻宏光

1日券 前 4,700 円 当 5,000 円

8/25 17:15 開場 18:30 開演

『祝祭』Special ナイフ

演出: 小田洋介(鼓童)

出演: 鼓童、上妻宏光、

伊賀拓郎、愛音羽麗

1日券 前 5,200 円 当 5,500 円

8/23 ~ 25 通し券 13,000 円

8/23+24 前 2日券 8,400 円

8/24+25 後 2日券 8,900 円

※通し券と2日券は前売のみです。

※学生券(高校生以上~24歳以下の学生)前 3,500 円 当 3,800 円 鼓童チケットサービス(Tel. 0259-86-2330)と佐渡島内一部のプレイガイドでのみ取り扱います。チケットをお渡しする際に年齢が確認できる物のご提示をお願いする事があります。

※中学生以下は無料ですが、小中学生は「子ども招待券」が必要です。鼓童チケットサービスまでお申し込みください。

※城山コンサートは雨天決行です。但し、荒天等主催者が危険と判断した場合は中止することがあります。

トーク&ライブ

千絵子におまかせ! 講師: 小島千絵子(鼓童) / 8/24 10:00 ~ 12:00 / あゆす会館 / 大人 3,000 円、小中学生 1,500 円 / 小学生以上 / 50 名

太鼓人生どんどこどん! 講師: 藤本吉利(鼓童) / 8/24 13:30 ~ 15:00 / あゆす会館 / 大人 3,000 円、小中学生 1,500 円 / 小学生以上 / 50 名
うたのびつくり箱 講師: 藤本容子、宮崎正美(鼓童) / 8/25 10:00 ~ 11:00 / 離島センター 3F / 大人子ども 2名 1組 3,000 円 ※追加大人 2,500 円、子ども 500 円 / 3 ~ 8 歳 / 50 名

セミナー

宮本常一と鬼太鼓座の時代

講師: 門田岳久(立教大学観光学部助教)、小西公大(東京外国語大学 特定研究員)、杉本浄(東海大学文学部専任講師) / 8/25 9:30 ~ 12:00 / 小木民俗博物館 / 3,000 円 / 中学生以上 / 20 名

チケット発売中

チケットの購入は申込書をご利用になるか、アース・セレブレーションのホームページから直接お申し込みください。チケット・ワークショップ申込書はアース・セレブレーション実行委員会へご請求ください。ホームページからダウンロードもできます。7/22以降は電話受付もいたします。

ワークショップ

ワークショップ(WS)は第一次受付を終了いたしました。参加案内を順次発送しております。定員に余裕のあるWSに関しては、7/22より二次募集を開始します。参加ご希望の方は、空き状況を確認の上、お申し込みください。

※定員に達しているWSのキャンセル待ちも7/22より受付いたします。

太鼓「音でキャッチボール」 講師: 齊藤栄一(鼓童) / 8/23 10:00 ~ 12:00 / あゆす会館 / 5,000 円 (バチ代込み) / 中学生以上 / 25 名

笛「より良い音を求めて」 講師: 山口幹文(鼓童) / 8/24 10:00 ~ 12:00 / 離島センター 3F / 4,000 円 (笛貸出) / 中学生以上 篠笛の経験(何か一曲吹ける程度)のある方 / 20 名

笛・唄・踊り「小木おけさ(佐渡島)」 講師: 小木さざなみ会の皆さん(佐渡) / 笛・唄 8/24 13:00 ~ 15:30、踊り 8/24 14:30 ~ 15:30 / 離島センター3F / 笛・唄 2,000 円 (笛・バチ貸出)、踊り 1,000 円 / 小学生以上 / 笛・唄は各 10 名程度、踊り約 40 名

踊り「浜河内鬼太鼓(佐渡島)」 講師: 河内若手の皆さん / 8/25 13:00 ~ 15:30 / 離島センター3F / 3,000 円 / 中学生以上 / 25 名

太鼓「八丈太鼓(八丈島)」 講師: 浅沼宏雄(はちじょう太鼓・楽鼓会) / 8/25 13:30 ~ 15:30 / あゆす会館 / 4,000 円 (バチ貸出・持参バチも使用可能) / 太鼓経験者(年齢問わず) / 30 名

【第一次受付で定員に達したWS】

太鼓「あなたも太鼓打ちに!」

太鼓「小木おけさ(佐渡島)」

太鼓「三宅太鼓(三宅島)」

アース・セレブレーション ホームページ

<http://www.kodo.or.jp/ec/>

アース・セレブレーション実行委員会(鼓童文化財団内) Tel. 0259-81-4100

佐渡アウトドア体験

人と自然が共存する島・佐渡を満喫

A. 琴浦シーカヤック体験 8/23 ~ 25
10:00 ~ 12:00、13:30 ~ 15:30 / 4,000 円

B. 大佐渡・石名天然杉散策
8/23,25 9:10 ~ 12:40 / 4,000 円

C. 小木半島ふしぎ探検 8/24
10:00 ~ 12:00、13:30 ~ 15:30 / 3,000 円

D. トキ見学&里山さんぽ
8/23,25 14:15 ~ 17:10 / 3,500 円
問) NPO法人しまみらい振興機構
Tel. & Fax. 0259-81-4567

Email: sado.taiken@gmail.com

申込方法: EC公式サイトの専用フォームにてオンラインもしくはファクスにて受付。参加は小学校5年生以上(小学生は保護者同伴)

鼓童塾
齊藤栄一の太鼓篇

10/10(木)-14(月・祝)

4泊5日 佐渡市柿野浦

詳細はお問い合わせください。

鼓童文化財団研修所

指導: 齊藤栄一(鼓童)

問) 鼓童文化財団 担当: 千田(ちだ)

Tel. 0259-81-4100

藤本吉利、藤本容子 公演とワークショップ



Asano Taiko U.S.

グランド・オープニング・イベント

この夏、アメリカ・カリフォルニア州トーランスに浅野太鼓楽器店のグループ会社「Asano Taiko U.S.」がオープンします。

記念のオープニングイベントに、藤本吉利と藤本容子がコンサート出演とワークショップ講師で参加します。

コンサート出演者：藤本吉利、藤本容子、今福優、木村俊介、堂本英里、末長愛、Los Angeles Taiko Institute (LATI) Staff; Yuta Kato, Kris Bergstrom, Jen Baik, Jason Osajima, David Wells, Yuri Yoshida
特別ゲスト (27日のみ)：前進太鼓 (ハワイ)

ゲスト出演 祭響 -saikyou-

第2回目となる「祭響 -saikyou-」公演、今年はプログラムを変えて大阪堺市で行います。

鼓童の藤本吉利、藤本容子のゲスト出演の他に、三宅島芸能同志会、和知太鼓保存会、そして地元で活動する和太鼓 京が出演します。和太鼓の力強さ、激しさ、楽しさを目で！耳で！体で！心で！感じてみてください。

藤本吉利、藤本容子 公演とワークショップ Asano Taiko U.S. グランド・オープニング・イベント

コンサート

日時：7月26日(金)、27日(土) 19:30開演、21:30終演

7月28日(日) 14:30開演、16:30終演

会場：Asano Taiko U.S.

20909 S. Western Ave. Torrance, CA 90501

料金：\$20 チケット発売中

ワークショップ「Odaiko」 講師：藤本吉利

日時：7月26日(金) 11:00～12:50 / 7月27日(土) 14:30～16:20

料金：\$50

ワークショップ「Voice Circle」 講師：藤本容子

日時：7月27日(土) 16:30～18:20

料金：\$50

<http://www.asano.jp/taiko/2013/07/asanotaikous.php>

藤本吉利・藤本容子ゲスト出演 「祭響」

日時：9月22日(日) 18:00開場、18:30開演

会場：堺市立美原文化会館 (大阪府堺市美原区黒山167-1)

出演：和知太鼓保存会、和太鼓京

ゲスト：藤本吉利、藤本容子、三宅島芸能同志会

料金：前売・当日とも3,500円 全席自由 6月末発売予定

問：和太鼓 京 代表 土師 (はぜ)

Tel: 090-5678-9241 (平日19:00～21:00)

小島千絵子 合宿太鼓WSと「ゆきあひライブ」

合宿ワークショップ「千絵子流女打ち集中講座」

期間：9月27日(金)～29日(日)

参加費：40,000円

(講師料、「ゆきあひライブ」チケット、保険、宿泊、食費を含む)

会場&宿泊：上越市・大池いこいの森ビジターセンター

(新潟県上越市頸城区日根津116-1)

参加資格：高校生以上 男女不問、太鼓経験者限定

定員：20名 ※最少催行人員10名

申込方法：ファクスかメールに、氏名・性別・住所・電話・年齢を書いて、以下の担当宛に9月10日(火)までに送信ください。ワークショップ詳細は、申し込み受付後にご案内します。

問・申込先：鼓童文化財団 担当 山中 Tel. 0259-81-4100

Fax. 0259-86-3631 Email: zaidan@kodo.or.jp

「ゆきあひライブ@坂口記念館」

日時：9月27日(金) 18:00開場、18:30開演

会場：坂口記念館 (新潟県上越市頸城区鶴の木148番地)

出演：小島千絵子 (鼓童)、山口幹文 (鼓童)、西野貴人

料金：前売3,000円、当日3,500円

申込先：坂口記念館 Tel. 025-530-3100

問：宮澤 Tel. 090-3104-4219

合宿ワークショップ
「千絵子流女打ち集中講座」
お待たせしました。ついに小島千絵子の太鼓合宿ワークショップが開かれます。新潟県頸城地方の豊かな自然を満喫しつつ、初秋の山々を眺める池のほとりの施設に宿泊しながらの集中講座です。
まずは初日の晩 古民家での「ゆきあひライブ」を楽しんで頂き、二日目から実技を一日半みっちり体験。踊り手の視点から太鼓を捉えた千絵子流の



メソッドにて、分かり易く一人一人に向き合い、参加者の皆様との交流も交えながらの実りのある二泊二日のカリキュラムをご用意しております。

小島千絵子 合宿太鼓WSと「ゆきあひライブ」

鼓童グッズ新商品のご紹介

スマートフォン ウッドケース (iPhone5用)

iPhone 5 専用のウッドケースです。天然素材の為、ひとつひとつ木目が違い、同じ模様が二つとない唯一の存在になります。また、使い込むほど飴色に変色していき、趣がでくると温かみさえ感じます。



左から:
鼓童筆文字(大)、
鼓童ロゴ、鼓童筆文字

スマートフォン ウッドケース (iPhone5用)

価格: 5,000円 鼓童の会会員価格: 4,500円
種類: 鼓童ロゴ、鼓童筆文字、鼓童筆文字(大)
材質: 天然木(サクラノボの木) 生産地: 中国
※ iPhone5対応。iPhoneは米国Apple社の商品です。記載の商品名等はその会社の商標または登録商標です。
※ 7月下旬に発売予定です。

鼓童グッズのお問い合わせはこちらまで
Tel. 0259-86-3630 (販売部)

鼓童文化財団研修所 見学会

アース・セレブレーション期間中の土曜日、研修生への応募を考えている方や、鼓童の会会員の皆様を対象に、研修所見学会を開催いたします。EC案内所前に集合いただき、チャーターバスで約1時間の所にある研修所まで送迎いたします。アース・セレブレーション期間中のため、研修生は不在で稽古の様子等はご覧いただけませんが、スタッフが同行してご案内いたします。

「鼓童文化財団研修所」見学会

日時: 8月24日(土) 9:30EC案内所前集合~12:30解散(予定)
定員: 38名様
料金: 1,000円(送迎バス代実費をご負担いただきます。)
お申込み方法: お電話かEメールでお申込みください。お名前、参加人数、佐渡滞在中のご連絡先、鼓童の会会員の方は会員番号をお知らせください。
※お申込みの際には、研修所への応募を検討中の方か、鼓童の会会員かの別をお伺いします。※1組3名様までとさせていただきます。団体での参加はできません。
申込・問: 鼓童文化財団事務局(担当・本間康子)
Tel. 0259-81-4100 / Email: zaidan@kodo.or.jp

白山丸まつり前夜祭

今年も宿根木の白山丸まつり前夜祭に出演いたします。「佐渡の夏祭り」で鼓童をという方はぜひお見逃しなく。

白山丸まつり前夜祭

鼓童出演日時: 7月27日(土) 19:30 ~ 20:00 (予定)
会場: 宿根木・佐渡国小木民俗博物館
(小木港から車で約10分)
出演: 山口幹文、船橋裕一郎、宮崎正美、立石雷
料金: 無料 ※雨天決行
問: 佐渡国小木民俗博物館 Tel. 0259-86-2604
白山丸友の会 Tel. 0259-86-1234

鼓童チケットサービスからのお知らせ

十一月~十二月の「鼓童ワン・アース・ツアー」(〇二二)「神秘」の先行予約は、八月号に申込用紙を同封いたします。申込期間は八月後半です。東京の「アマテラス」公演会場でも会場での受付を行っておりますが、会員の皆様は会員向けの先行予約をご利用ください。

今月の付録

- ◎「アマテラス」南座公演
- ◎「風の彩」管の綾
- ◎EC2013「プレイベント」佐渡新能公演「チラシ」(佐渡島内のみ)

おやつ篇

鼓童村の食卓

鼓童村に甘い匂い、「今日はパンの日だ!」今月は、おやつ篇「大井キヨ子特製「アーミッシュブレッド」」をご紹介します。



題字とイラスト: 石原雅美

● アーミッシュブレッドとは「アーミッシュ」という古来の生活方法を変えずに生活している人々の秘伝のパンのこと。アーミッシュのパンの種というは一説ですが、多くの人の手を渡り、こうして鼓童村でも味わっています。

● 作り方
材料Aをふるう。材料Bを混ぜる。材料AとBを混ぜ合わせる。フライパンに流し入れ、フタをして片面を弱火でじっくり約15分、裏返して5分焼いて出来上がり。

アーミッシュブレッド

● 材料(写真の一皿分)

- A { 薄力粉 2カップ
ベーキングパウダー 大さじ1と1/2
卵 3個
- B { パンの種 2カップ
牛乳または水 100cc
オリーブ油 大さじ4
バニラエッセンス
(刻んだクルミやレーズンなど)





写真:佐藤正治

◆この夏は佐渡へ◆

夏の始まりから終わりまで。音楽も自然も、佐渡の夏にはいろいろな楽しみがあります。

鼓童 佐渡特別公演

宮崎正美が特別公演初出演、ノワーアップしてお届けします。
7月13日(土)～21日(日)※17日(水)休演 佐渡市・宿根木公会堂
出演:藤本吉利、小島千絵子、山口幹文、宮崎正美、立石雷ほか
(7月号で出演者として掲載いたしました。小松崎正吾は、都合により出演いたしません。)

14:30開場 15:00開演 16:00頃終演
料金:大人3,500円 子ども1,500円(当日300円増)
鼓童の会会員:大人3,000円 子ども1,000円(前売のみ)
子どもは4歳～小学生。3歳まで無料。
問:鼓童文化財団 Tel. 0259-81-4100 (月～金 9:30～17:00)
佐渡太鼓体験交流館 Tel. 0259-86-2320(9:00～17:00 月休)

EC2013 城山コンサート最新情報

『アマテラス』公演にアメノウズメ役で出演される愛音羽麗さんが、
城山コンサート『祝祭』に特別出演することが決まりました。
8月25日(日)『祝祭』Special ナイ (演出:小田洋介)
出演:鼓童、上妻宏光、伊賀拓郎、愛音羽麗(特別出演)
佐渡市・城山公園 17:15開場 18:30開演
前売 5,200円 当日5,500円(小・中学生無料、要子ども招待券)
問:EC実行委員会 Tel. 0259-81-4100 (月～金 9:30～17:00)
※8月24日(土)城山コンサート『創世』演出担当は、吉井盛悟から
坂東玉三郎さんに変更となりました。

鼓童についての最新情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.kodo.or.jp>

鼓童事務所へのお問い合わせはこちらへ。
Tel. 0259-86-3630 (代) / Fax. 0259-86-3631
Email: heartbeat@kodo.or.jp

▼交流学校公演で新潟から福岡まで、日本各地に
いつてきました。「わぁーたいこのひとたちだぁー」
と、ウキウキ感全開で待ってくれている子ども達。
最初は音の迫力にびくつきながらも、笑ったり叫
んだり無邪気に反応し、時には目を大きくして
じーっと見つめていたり。そんな純粋な姿に癒
された旅でした。(恵)

▼六月八日、東京の国立劇場で「東北の芸能Ⅲ福
島篇」を観ました。いわきからは「菅波のじゃんが
ら念仏踊」が出演。震災以降、県内にはコミュニ
ティが崩壊してしまった地域がたくさんあります。
山名さんのコメントにもありましたが、芸能は人々
を繋ぐことができる術。みなさんに「じゃんがら」
を紹介できるのが楽しみです。(美)

▼震災後の再オープン成った、大船渡市三陸町綾
里白浜の旅館「廣洋館」に行ってきました。鼓童
はこの「主人とその仲間」と縁あつて、綾里の
お祭りの復活に向けて応援協力する相談をして
いるのです。しかし、営業再開まで二年と三ヶ月
。頑張っている海の傍のお宿が沢山あります。
ぜひ皆さんも三陸へ行ってみませんか。HPは
整っていない所が多いので、直接お電話で。(倫)

▼「松ヶ崎地区連合運動会」に初参加。保育園
児と小中学生は紅白に分かれ、大人は松ヶ崎、多
田、浦ノ川内、丸山、浜河内、五つの集落の対抗戦
です。浜河内の応援席に来てみたら、鮮やかな緑
色のお揃いのTシャツに黄色のボンボン。自称「前
世はブラジル人」の私にとつて、そこはカナリアカ
ラーに囲まれた、妙に落ち着く場所でした。(康)

▼六月の稽古場は本当に目まぐるしく動いていま
した。アマテラスに上妻宏光さんとのEC新曲三
楽章に、十二月新作「神秘」。三作品に次々と挑
んだ皆のエネルギーが大きな渦巻になって東京へ!
みんな、充実した舞台になりますように!(す)